

石クリ通信

2月号

新年早々の出来事

事務 森 絵里子

あるお風呂屋さんに行った時の事。そこには露天風呂がありとても楽しみにしていました。いざ外に出ると湯気がもくもくと寒く寒い日だったので早く温まろうと入ってみると、ビリビリと感じるほどの熱さ。慌てて風呂から上がった足がヒリヒリ。「これは何かの間違いかな?外が寒すぎて熱く感じただけかも」と思い再チャレンジした。お風呂から出てしばらく経つても足は真つ赤になったままだったので店員さんに聞いてみたところ、露天風呂の温度調整の機械が壊れ、52℃の設定になっていたそうです。店員さんは慌てて氷枕を持って来てくれました。(私が再チャレンジなんてしなければこんな事にならなかったのに。汗)「お客様、救急車呼びましょうか?」と言われたのにはビックリ。この程度で救急車呼ばれたら病院側はたまったもんじゃないな、と感じた日でした。

未永くお幸せに

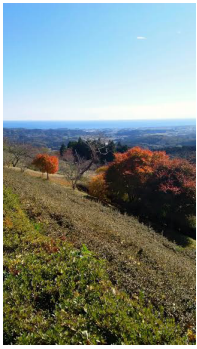
看護師 澤田 彰子

柴田さんに続き我が家でも姪の結婚式がありました。姪の誕生時、私は看護学生だったので実習も兼ねて：と私も出産に立ち合いました。姉も私も初めての育児にオムツの当て方や夜泣きで寝不足になったりと悪戦苦闘、独身だったので姉宅に泊まりに行ったり旅行をしたりと思い出も多く娘に近い存在でした。去年北海道の人とお付き合っているとき聞いた時は、何故か淋しさの方が先に素直に喜ばせませんでした。しかし結婚式では幸せそうに二人の姿を見て心から「おめでどうう」と言えました。おばちゃん達は遠く離れた茨城から極寒の地で暮らす二人の幸せを願うばかりです。

温泉同好会へ復帰

看護師 柴田 さち子

昨年六月まで温泉同好会に出席していましたが七月から旅行、八月盆、九月十月姉の病気のため病院へ付き添い、十一月孫の結婚式と後半に来て忙しく、温泉同好会も欠席してしまいましたのでまた温泉同好会に出席します。同好会のみな様お待たせしました。今年は今まで行った事のない所に行ってみたくすね。四季、景色を楽しんで心と体に癒しを。



前向きな言葉をしてユーモア 院長 石川 悟

日々の外来診療では、時に検査結果など患者さんに対する現実を告げなければならぬことがあります。かつては癌の場合も癌とは言わず、腫瘍とか悪性の病気とか、あいまいな言い方をした時もありました。最近癌がはつきりしている時は、本人にも癌という言葉を使うのが一般的です。ただし治療可能な癌の場合はいいのですが、進行癌の場合は、非常に情報を客観的に伝えることと、前向きで希望のある言葉を付け加えることです。

「この病気で死にますか?」と訊かれ、イエスと答えなければならぬ時は、「はい、可能性高いです。でも人間いつかは死にますから、死ぬ理由が見つかった、と思ったださい。」とか「はい、でも大丈夫です。この病気の場合は、他人に迷惑をかけるような亡くなり方はしません」とか「大丈夫です、この病気の進行は遅いので、死ぬまで生きられますよ。」などわかつたようなわからない言い方で励ましています。

ホスピスなどではユーモアのある言葉が患者さんの心をなごませる、と最近読んだ本にありました。ちよつとした駄洒落でも、おやじギャクでもいいので、ニコつとさせるような言い方ができれば、と思っています。ユーモアは「愛情」といわれる現実的な表現」だそうです。

二〇一八年の抱負

事務 田所 弓佳

二〇一八年も早いことにもう一ヶ月が過ぎてしまいましたね。私の今年の一番の目標は、料理ができるようになることです。食べることは大好きなのですが、全く料理ができません(汗)。以前、スタッフの皆さんから誕生日プレゼントに料理本を頂いたのですが、活用していませんでした(本当にすいません(泣))。ですので、今年はこの頂いた本を活かして、たくさん種類の料理が作れるようになりますように。そして皆様にとって素敵な一年になりますように。☆

初日の出

看護師 高山 早苗

今年の一月一日早朝、テレビの生中継でダイヤモンド富士を見ました。主人はトイレに入っていて見られませんでした。こんな美しい初日の出に願い事をしたら叶いそうと思いつきながら、我が家ではベランダから見ることができました。この初日の出の習慣は日本古来のものですが、盛んになったのは明治以降であり、初日の出に願い事やその年の決意などを祈ることが多いのだそうです。今年の初日の出、みなさんはどこで見ましたか? 願い事が叶うといいなあ。

新しい作品探し、時々脳トレ 薬剤師 石川 恵

寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。寒さに弱い弱いと言いつつ私ですがここ数年特に顕著な気がします。昔は紅白の勝ち負けくらいまでは見ていた気がする。今は始まる前に寝ている(一応録画済)。そんなこんなでより一層部屋で漫画を読みふけている私です。最近本屋で目に付くのが「昔の有名作品のスピンオフ漫画」。スピンオフというのは以前軽く触れた作品です。例を挙げると「D・キリコ白い死神」(小林少年)シリーズ、「憂国のモリアーティ」等々。私はどれも手にして三十秒ほどフリーズしましたが、皆さんはいつわかつたでしょうか。ちなみにモリアーティ教授とはシャーロックホームズに出てくるホームズの宿敵、小林少年は怪人二十面相に出てくる明智小五郎の愛弟子、D・キリコとはブラックジャックに出てくる「治る見込みのない患者は安楽死させるのが本人のため」というブラックジャックとは正反對の信条を持つ医師です。

勝負の面白さ

事務長 石川 都

昨年から受付の募金箱で皆様にも応援頂いた明秀サッカーの全国大会を、正月三日に駒沢競技場で観戦した。東京出身ながら駒沢は初めてで、広いオリンピック公園に入ると東京オリンピックの興奮を思い出し、気持ちちは高ぶるわくわくする。明秀は年末から正月にかけての一回戦、二回戦を奇跡的に勝ち取り、いよいよ三回戦の相手は強豪の大阪桐蔭、どう見ても格上。高校生ながらガンバなどのユース揃いで、体型も一回り大きく、ロングパスもほとんど独占。転び方も実にうまくファウルに繋げ、こちらは怒りつつもさすが大阪!と感心しきり。むしろ試合運びは予想通り劣勢で、これでは大差をつけられねばラッキー・・・と内心思っていたのは私だけではなかったらう。

ところが試合は予想外の展開へ・・・前半を何とか耐えて0対0で折り返すと、どさくさで一点入れられた後、相手の隙に同点へ、さらにPKで全員入れ、何と勝ってしまった! 格下無名校への気の緩みだろうか、まさかの敗北を喫した相手も呆然、こちらも呆気に取られ現実とは思えなかった。

ただこれが高校生の試合の醍醐味だろう。必ずしも技術力が勝敗を決めない。格上の相手に必死で食らいついてゆく中でチャンスも生まれ、そこを巧く突けば点は入る。明秀チームのおおらかさには応援する側も、劣勢だがもしこれがこれを勢い、あるいは運を味方につけると言うのかもしれない。改めて「希望と樂觀」、最後まで諦めないことの大切さを思った新春の一日だった。